

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 4年 3月 24日

事業所名 多機能型事業所ミルキーウェイ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3		<ul style="list-style-type: none"> ・今の部屋の倍くらいの広さがあれば屋内で走ったりする活動が出来たりすると思う。 ・スペースを広く使える様に部屋にあまり必要以上に物を置かない様になっている。 2・その日の利用児の人数で活動内容を変更し適切にスペースの活用ができていていると思う。 ・活動内容や利用人数によっては適切なスペースでない場合もある。戸外活動を取り入れ活動内容は工夫し取り組んでいる。
	2	職員の配置数は適切である	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・日により十分に足りている時とフォローが必要と思う事がある。 ・配置数が少ない場合は他の部署よりフォローしてもらっている。 ・利用児に対してスタッフが少ない時は、他部署よりフォローができていている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個々のマークを決め、誰の物かが分かる様にしている。トイレが複数あるともっとトイレでの排泄訓練がしやすい。又、トイレまでの移動の際に段差があるため注意が必要。 ・本人が分かり易いように本人だけのマークを付け工夫している。 ・バリアフリーではないが、段差に注意が向く様、その都度声掛けを行ったり、段差で一旦座って移動する等、その子に応じて対応を行っている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	0	<ul style="list-style-type: none"> ・空き時間や子供たちがいない時に掃除を行っている。 ・誕生表や季節の飾りものをしていて楽しくなるような部屋づくりを行っている ・活動にあわせた空間づくりを行っている。利用児も大きくなり、少し空間が狭い様に思う事もあるが活動中に壁や利用児同士ぶつかったり等無い様配慮が必要であるように思う。 ・換気を行い、空調を整え、毎日、掃除の際にアルコール消毒（部屋、使用した玩具等）を実施し感染対策を行っている。
業務 改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	2		<ul style="list-style-type: none"> 様々な業務を省いたり、簡略化してしまうのは簡単であるが、その業務を行うようになった理由を振り返り、その改善案がさらに安全に業務を行う物となるのかなど、職員で都度考える必要がある。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	<ul style="list-style-type: none"> 年に1回保護者様へ事業所評価の記入をお願いし保護者様の意見や意向の把握を全職員で行うようにしている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	0	<ul style="list-style-type: none"> 公表している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	0	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		<ul style="list-style-type: none"> 研修の紹介や研修に参加しやすい雰囲気はあるものの、興味のある事にしか研修参加していない様子も見られる。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4	1	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントや支援計画作成はスタッフで話し合いをもち、支援計画書にできている。また、モニタリング説明時にご家族の困りごとの聞き取り及びアセスメントを行い、ご本人やご家族の希望を取り入れたうえで計画案作成を実施している。

適切な支援の提供	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	0	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	0	設定されている。ガイドラインの内容でしっかり咀嚼できていない部分も多いので、ガイドラインについてはこれからも勉強を続けていきたい。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4	0	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	毎月ミーティングで検討しており、ミーティング際に必ずプログラム立案についての話し合いの場をもっている。また、毎月月案を作成する際にチームで話し合い、月の活動内容を決めている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて児童発達支援計画を作成している	4	1	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1	簡単ではあるが、打ち合わせが必要な事は確認をおこなっている。また、その日の活動内容に応じてスタッフの人数、役割、配置を検討し朝礼で伝達している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 終業が早い職員もいることから、後日や気になった時にその都度実施している。 ・ 振り返りはミーティングの時やその都度行っている。 ・ 支援終了後には実施していないが、毎日のミーティングや翌朝の朝礼にて注意点が伝えられている。 ・ 毎日、ミーティングを実施し振り返りを行い情報共有や支援の統一が図れるようにしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	連絡帳控えの裏に、その日気になった事等の特記事項を記入しており、毎日その日の利用児の様子、気づき等記録を残している。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	3	0	・ 個別支援計画に対しては半年ごとのモニタリングの実施のみで、途中で計画の見直しはできていない。今後3か月毎のモニタリングを行いたいと考えている。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	利用児の状況を十分に把握し、事業所内で共有し、関係機関に伝達できるスタッフで参画している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	0	

関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	1	連絡ノートをご家族が準備され、関係機関やご家族等が自由に記入できるノートを活用し、情報の共有ができています。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	0	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	幼稚園や保育園に通っている利用児もいるため、情報共有を図っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	3	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	2	一度、地域の保育園と交流を実施したが、現在はコロナ禍にて実施できていない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	1	2か月に1回地域で開催される「こども部会」へ参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	送迎時間等、利用者の様子を伝えたり、疑問に思う事は確認しており、毎日送迎やご家族お迎えの際に自宅の様子、ご利用児の様子など伝達が相互にできている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	1	2	ご家族が送り迎えの際やスタッフ送迎時等、困った事や相談等あればいつでもお話を聞き必要に応じてスタッフで話し合った上でご家族にお伝え対応している。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1	契約時に丁寧に説明している。支給量を超過して利用した場合は超過分は自己負担となる旨事前にお便りで説明し、超過しない様に利用日数を把握できる様に希望表への他事業所の記入もお願いしている。
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4	0	発達支援、家族支援、地域支援、在宅支援に分けて作成し、ご家族への説明を同意を得たうえで支援を行っている。	
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1	お迎えにこられたお母様から相談に適切に応じる事が出来ている。	

保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	3	クリスマス会と保護者会を同時に会したことがあったが、現在はコロナ禍にて開催できていない。今後、Zoomなどを利用し、保護者会を行いたいと考えている。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1	ご利用の追加希望や急な送迎希望等に対し、スタッフの配置や車両等、無理なく安全に受ける事ができるか判断しできる限りお受けして対応するようにしている。又、相談に対するお返事はできるだけ迅速に対応するように配慮している。
	37	定期的な会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	2	・月案として発行し、都度お知らせや情報がある場合は別に発信している。 ・毎月、月案を発行し、月案の中で1カ月の活動の予定を記入したものを作成し配布している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0	利用者の情報が記載されている物は機密書類として別にしている。個人情報は全て鍵付書庫で管理しており、支援会議や担当者会議等関係機関との連携以外での情報漏洩には十分配慮している。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	1	一番伝わりやすい方法を見つけて伝えるようにしている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	1	夏祭りは地域の方も参加できるように案内を出していたが、コロナ禍にて実施できていない。屋外の散歩ですれ違う方に挨拶をする等利用児たちも一緒に挨拶をすることができている。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	1	マニュアルは作成され職員・保護者に周知され、避難訓練は半年に1回実施、緊急時対応マニュアルは毎日スタッフで確認し周知を図っているが防犯訓練の実施はできていない。
	42	非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	・訓練を実施しているが、短時間勤務者については、実際訓練の参加経験がない者もいることが課題である。 ・半年に1回避難訓練を実施し訓練を振り返りを行い反省点をスタッフ皆で共有し周知を図っている。 ・非常災害時の物品の管理は係を決めて定期的に消費期限の確認等実施し、救急救命の講習も実施している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	0	緊急時対応のファイルを作成し、その日の利用児のそれぞれの対応を各職員で確認し支援に入ることとしている
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	軽微な事でもヒヤリハットに記入し改善策を考え、スタッフ皆で共有し大きな事故に繋がらないよう、その都度朝礼で報告するようにしている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	0	個別支援計画書にどのような場合に身体拘束を行うかの記載を行い説明して同意を得ている。また、やむを得ず身体拘束を行った場合には、身体拘束チェックシートに記入（活動時に椅子に座ったり、送迎時にチャイルドシートに座る等も含め）している。